

兵庫NIEニュース

第63号

発行 兵庫県NIE推進協議会

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内
TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP <http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/>

蝉は鳴いているでしょうか。マスクとクーラーと換気の中で、学校では授業を進めようとしていることを存じます。「100年に一度」「50年に一度」、そして「今までに経験したことのないような…」が続く2020年度です。

先生方へご支援くださる関係の皆さんへ、感謝を深くし、NIEの意義を再確認した1学期でございました。

4月、休校がいつまで続くのか、対応で普段に増して忙しい学校に、実践計画の打ち合わせの連絡を申しました。「授業ができるのにNIEなんて」と気が引けて申し訳なくておりましたら、「生徒が学校に来たら、すぐ要るから」と快くお約束くださいました。感激いたしました。

あらかじめ計画をいただいていた本年度の新聞提供期間が迫っている学校もあり、本協議会の発案で、実情に沿って提供期間を見直しました。

た。

休校期間中も、実践校ではオンライン授業や課題でNIE活動をしてくださいました。NIEでの探究活動計画のご相談もいただきました。ことは著作権の心配なく記事をオン

寄稿 コロナのもとで

兵庫県NIE推進協議会会長 秋田久子

オンラインで提供することもできます。

学校のお邪魔にならずに、お役に立てるようにしたいと、一層強く思いました。そこで、本年度のNIE活動についても再検討し、オンライン総会でお諮りしました。

5月末、西上・県教育長、長田・神戸市教育長はじめ、小・中・高の校長会長・副会長、摺河・県私立中学校高等学校連合会理事長、そして関係の皆さまが総会に出席くださいました。コロナ対応でお忙しい中での支援に、感謝でいっぱいでした。

本年度は7月のセミナーを中止しました。その分、いつでも、ご要望に応じて協議会から支援訪問をさせていただきます。記者派遣事業と公開授業は、ご要望と状況に合わせて実施したいと思います。来年2月の実践発表会は、実践発表に加えて、新聞・通信社による講義や体験ワークを考えております。

新聞があると、学校外でも活字と情報に触れて考える習慣を、手軽に幅広い分野で保ち続けることができます。先生方が開発なさったそのための準備や方法をもつともとお知らせしていく、その場を作つてください。心いたしました。

ありがとうございました。どうぞこのNIEがお役に立てます。本年度に限つては、著作権の心配なく記事をオンライン授業を行つたり、小中・中高校で実践指定校は例年通り20校。新型コロナウイルス対策として記者がオンライン授業を行つたり、小中・中高校

県内20校実践校に指定

日本新聞協会は7月8日、新聞を

生きた教材として活用する「NIE（教育に新聞を）」の2020年度実践指定校に全国535校を決めた。

兵庫県内では20校が指定された。

535校の内訳は、小学校219校、小中連携4校、中学校174校、中高連携11校、高校118校、特別支

援学校9校。県内は小学校4校、小中連携1校、中学校4校、中高連携1校、高校10校。指定は原則2年間で、新聞を自由に活用してもらうため、購読料を新聞協会と各新聞社が全額負担する。県内の実践指定校は次の

町立中谷

【中高連携】新規＝愛徳学園

【高校】新規＝県立明石西、県立西宮、県立多可、県立神戸高塚、県立兵庫▽継続＝神戸市立浜脇、兵庫教育大付属、蒼鶻▽継続＝猪名川

原、県立加古川南、県立三田西陵、県立神戸鈴蘭台

【中学校】新規＝西宮市立豊富、淡路市立美筑

【小中連携】継続＝姫路市立豊富、兵庫教育大付属、蒼鶻▽継続＝猪名川

【高校】新規＝県立明石西、県立西宮、県立多可、県立神戸高塚、県立兵庫▽継続＝神戸市立神港橋、県立柏原、県立加古川南、県立三田西陵、県立神戸鈴蘭台

【中高連携】新規＝愛徳学園

【高校】新規＝県立明石西、県立西

宮、県立多可、県立神戸高塚、県立兵庫▽継続＝神戸市立神港橋、県立柏原、県立加古川南、県立三田西陵、県立神戸鈴蘭台

【中学校】新規＝西宮市立豊富、淡路市立美筑

【小中連携】継続＝姫路市立豊富、兵庫教育大付属、蒼鶻▽継続＝猪名川

県推進協 オンラインで総会



一貫校で実践を進めたりする事業計画を承認した。（推進協ホームページに事業計画を掲載）

同協議会は学識経験者や兵庫県教育委員会、神戸市教委、県内の学校、新聞・通信社で組織している。

総会はテレビ会議アプリ「Zoho Meeting（ズーム）」を使って実施＝写真。同協議会の秋田久子会長が「現場の状況に合わせ、柔軟に活動したい」とあいさつした。

県教委の西上三鶴教育長は「大変な時期だが、子どもたちが充実した教育活動ができるよう、NIEの協力をお願いしたい」、神戸市教委の長田淳教育長は「休業中、子どもたちは大変だったが、社会を意識した遊びに触れた。そこにNIEの重要性を感じる」と述べた。

学校教育の現場で新聞の活用を進める「兵庫県NIE推進協議会」の総会が5月29日開かれた。本年度の実践指定校は例年通り20校。新型コロナウイルス対策として記者がオンライン授業を行つたり、小中・中高校

通り。(4~5面に指定校20校抱負) 通り。(4~5面に指定校20校抱負) 通り。(4~5面に指定校20校抱負)

新型コロナウイルスによる長期休校中、兵庫のNIE実践指定校の児童・生徒はオンライン授業で「新聞スクラップ」に取り組んだり、「新聞ワークシート」を活用したりとNIEを取り組んできた。コロナ禍が学校生活に与えた影響は計り知れず実践してきた。

市立大神川小学校、兵庫教育大学付属中学校、西宮市立浜脇中学校、愛徳学園中・高校の4校に寄稿していただいた。

寄稿 コロナのもとで

愛徳学園中・高等学校教諭

米田俊彦



当校では2020年3月から新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校が続いていましたが、緊急事態宣言の解除を受け、5月下旬から分散登校を始め、6月1日から学校を再開しました。

ノートのカード（スライドのようなもの）に文字や図、写真、ときには動画を入り、音声も乗せて、自宅にいる生徒と送受信し、添削や解説を行うことで授業ができると考えました。

授業ができます。

生徒がスクラップした新聞記事をテストの範囲に

度行い、新聞を読む、新聞に興味・関心を持つという

ことにつなげています。

こうした中、20年度からNIE実践を強化することになり、「新聞のすめ」に興味・関心を持つという

ことにつなげています。

そして、高校2年生と3年生を対象にした選択国語表

現のオンライン授業で「新聞スクラップ」に取り組みました。

「新聞スクラップ」は過去の授業でも行ったこと

がありますが、自分の興味のあることや進路に応じてA4サイズのノート

として、高校3年生と2年生に講習を実施しました。

3月下旬からオンライン授業（名称「愛ちゃんねる」）として、高校3年生と2年生に講習を実施しました。

授業では、生徒の「学びた

ている授業支援アプリ「ロ

イロノート」（タブレット

端末）を使って遠隔授業が

できないか検討を始めま

した。口頭は対面授業の中

で、文房具の一つとして使っている「ロイロノート」

を対象に科目を絞つてのオ

ンライン授業と課題の郵

送などで授業を行いました。

しかし各教員で試行錯誤し

ました。その結果、ロイロ

は全教科で正規の授業とし

ました。その結果、ロイロ

兵庫教育大学付属中学校校長



大山隆史

新型コロナウイルスの影響で突然、臨時休校要請が発表されたのが、3学期の期末テスト最終日の前日夜。いつ再開できるか見通せない臨時休校が始まり、結果的に3カ月に及びました。

その間、兵庫教育大学付属中学校では、生徒の「学びの保障」をどう確保するか、全職員が何度も話し合い、できることから行ってきました。

や、授業の動画を教師自ら制作しネット配信しているといったニュースが新聞などで取り上げられています。本校でもそのような取り組みができないか教員間で話し合いを進め、20代後半～30代前半の教師を中心にしてプロジェクトチームを立ち上げ、動画配信やオンライン授業の実施に向け、打ち合わせや研修を行ってきました。

スペイン風邪の記事 課題に活用

ク・タイムズ紙の紙面を紹介したケースもありました。
「Sway」で作成したホームページからプリントや問題をダウンロードでき、「Forms」では出席を確認したり、体調管理調査を行ったりすることもでき、体温が高かつた生徒にすぐ連絡する対応もとりました。さらに、5月11日からは「非同期型」ですが、全教科で週1回以上動画を配信し、「特設ホームページ」を使いオンライン授業を開始しました。

数学科の動画は、教師2人が教師役・生徒役として登場し、質問に答えながら進めたり、これを見た生徒からの回答に次の授業で答えたりするなど、双方向を意識した内容です。体育科の動画は、体育科教員が生徒たちの運動不足解消に役立つダンスなどを披露したりしていました。それぞの動画へのアクセス数を見ると多くの生徒が、本校教員が作成した動画を見て学習を進めていることが分かりました。質問したいときは、「Form S」を利用して行っていました。

新型コロナウイルスで休校が長引き、子どもたちの学力向上をどう図ればいいのか。家庭学習に頼ることが多く、各家庭の協力にとても感謝しています。そして、学校は何ができるのかを日々模索してきました。伊丹市立天神川小学校が4～5月の休校中に行つた、各家庭への課題プリントのボクシングは計5回に及びました。アナログな作業で、たくさんのプリントを印刷し封筒に入れ、子どもたちの顔を思い浮かべながら、こんなにも回ったことがないというくらい一軒一軒を回りました。

算数や国語の宿題だけではなく、何か強く興味をもてる課題はないかと模索しているとき、読売新聞ワークシート（小学生版）が目に留まりました。各新聞社が作成しているワークシートは家庭での学習にとても役立つと感じています。読売新聞東京本社の教育ネットワーク事務局に問い合わせたところ、ワークシートを印刷して配布することを快

新聞のワークシートを使って

新聞には、リアルタイムで必要な情報が掲載されていいることに気づいてほしい。こんな時期でも明るいニュースも載っていることを知つてほしい。そんな思いがありました。まだまだ新型コロナウイルスの感染は心配ですが、「みんな待つっているよ」と言葉に、つながりを大切にした取り組みを進めています。

詰めていたときました。
使用させてもらつたのは、5月13日付の「明石・天文学館」です。紙芝居や体操配信が、同館の人気キャラクター「軌道星隊シゴゼンジャー」による紙芝居や簡単にできる体操の動画「おうちで天文学館」をつくり、投稿サイト「YOUTUBE」で配信しているという内容で、兵庫県の話題だったのも大きな理由です。

ワークシートの「あなたは、手を洗っていますか」という質問に、ある子どもは「ちゃんとしつかり20秒洗っています」と回答していました。

伊丹市立天神川小学校教諭



NIE実践指定校

自らの判断する力養う

まづ新聞の役割理解

各社の記事読み比べ

新聞活用表現力磨く

世界を読み解く扉に

【伊丹市立天神川小】

【兵庫教育大学付属中】

【県立西宮高】

【県立神戸高塚高】

校長 津田 康子
実践代表者 竹安 雄一
今、私は臨時休校中の子どもの家に「家庭ずつボスティング」してき

校長 大山 隆史
実践代表者 安永 修
本校は、「物事を多角的に理解し、新たな価値を『共創』できる子ども育成」を、自指す子ども像として掲げている。NIE実践校の取り組みを通じて、社会における新聞の役割を理解させるとともに、『地域や社会を知る』をテーマに掲げて授業を展開する。情報があふれる現代社会では、正しい情報を見抜く力はもちろん、誤った情報を発信しない力も必要である。授業と並行して朝の5分学習で新聞ワークシートを活用するなど、新聞に触れる機会を増やし、その力を育成したい。

校長 萩原 健吉
実践代表者 宮本 隆史
本校は新聞記事を活用した探究学習の実践に取り組む。1年次では、「地域や社会を知る」をテーマに調査・研究・発表する。2年次後半から3年次にかけては「課題研究」に取り組み、生徒が自ら設定したテーマについて論文を作成する。さまざまな記事や図表、データなどを活用し、論理的思考力、表現力を向上させたい。

校長 仲山 晃博
実践代表者 伊東 琢磨
本校では、1年の時間で新聞を用いて、膨大な情報を収集し、分析・整理をする基本的な手法を学ぶ。NIEで提供していただく6冊から、我々が直面している日本社会の諸問題を読み解き、その課題と解決法を探る。また、この活動を通して、社会に関心を持ち、積極的に自ら課題解決に取り組む態度を育成する。



校長 阪口 審明
実践代表者 太田 栄
本校では新聞の読み比べを通して、同じ情報であつてもどのように伝えられるかを学習し、最終的に新

方があつたかを学習し、最終的に新聞記事の作成を目指す授業を展開する。情報があふれる現代社会では、正しい情報を見抜く力はもちろん、誤った情報を発信しない力も必要である。授業と並行して朝の5分学習で新聞ワークシートを活用するなど、新聞に触れる機会を増やし、その力を育成したい。

校長 片岡 正光
実践代表者 上田 多江子
新入生へのアンケートから日常新聞をほとんど読まない生徒が8割、これから読みたいと思う生徒が3

で多様な価値観を育み、現代社会に適応できる生徒の育成を目指す。また、約4割の生徒が就職希望であり、進学者も短大や専門学校へ希望する生徒が多く、早くから時事問題に触れる必要がある。NIE実践を有効活用することで、グローバル化など日々変化する社会情勢に対応できる力を養う。

校長 江村 隆一
実践代表者 竹安 雄一
校中の子どもの家に「家庭ずつボスティング」してきました。スローなコミュニケーションだが、双方のやり取りができるとの喜びを感じている。新型コロナから身を守るだけでなく、情報の取捨選択、メディアリテラシーの向上の重要性を強く感じている。NIEの実践を通して情報をうのみにせず、自分の頭で判断できる大人に育つてほしいと願う。

校長 大山 隆史
実践代表者 安永 修
本校は、「物事を多角的に理解し、新たな価値を『共創』できる子ども育成」を、自指す子ども像として掲げている。NIE実践校の取り組みを通じて、社会における新聞の役割を理解させるとともに、『地域や社会を知る』をテーマに掲げて授業を展開する。情報があふれる現代社会では、正しい情報を見抜く力はもちろん、誤った情報を発信しない力も必要である。授業と並行して朝の5分学習で新聞ワークシートを活用するなど、新聞に触れる機会を増やし、その力を育成している。

校長 升川 清則
実践代表者 畠田 勉
本校は2年生の間でSDGsをテーマに学習する。新聞記事に触ることで、対話的に他者と意見交換すること

で、生徒にとって新聞がいかに身近な存在であることがわかった。さまざまな興味を高め、あらゆることを主体的に考えていくねらいがある。授業で、書画カメラを使い発表することでプレゼン能力も身につけ、お互いの発表を聞き、多面的に物事を考える力を伸ばすねらいがある。

校長 辻村 隆一
実践代表者 渡谷 仁崇
本校では、本年度より実践指定校度を中心に生徒に参加する。第1学年を中心には、本校では、本年度より実践指定校

校長 富内 健一
実践代表者 米田 俊彦
i-PadとWi-Fi、プロジェクトクターを導入して

校長 片岡 正光
実践代表者 上田 多江子
新入生へのアンケートから日常新聞をほとんど読まない生徒が8割、これから読みたいと思う生徒が3

で、生徒にとって新聞がいかに身近な存在であることがわかった。さまざまな興味を高め、あらゆることを主体的に考えていくねらいがある。授業で、書画カメラを使い発表することで、インターネット利用では得られない幅広い視野の拡大を目指すとともに、新聞記事に触ることで、インターネット利用では得られない幅広い視野の拡大を目指すとともに、新聞記事に触ることで、

各自が「NIEノート」を作成し、記事をスクラップすることで、社会全体や世界の動きを通して、関心興味を高め、あらゆることを主体的に考えていくねらいがある。授業で、書画カメラを使い発表することで、プレゼン能力も身につけ、お互いの発表を聞き、多面的に物事を考える力を伸ばすねらいがある。

校長 辻村 隆一
実践代表者 渡谷 仁崇
本校では、本年度より実践指定校度を中心に生徒に参加する。第1学年を中心には、本校では、本年度より実践指定校

校長 上田 多江子
実践代表者 片岡 正光
新入生へのアンケートから日常新聞をほとんど読まない生徒が8割、これから読みたいと思う生徒が3

で、生徒にとって新聞がいかに身近な存在であることがわかった。さまざまな興味を高め、あらゆることを主体的に考えていくねらいがある。授業で、書画カメラを使い発表することで、インターネット利用では得られない幅広い視野の拡大を目指すとともに、新聞記事に触ることで、

20年度記者派遣スタート

NIE実践指定校への2020年度記者派遣事業が
6月26日、県立神戸鈴蘭台高校からスタートした。新

■県立神戸鈴蘭台高校

インタビューに挑戦

神戸新聞NIE推進部の三好正文
シニアアドバイザーが、「インタビューコツ」をテーマに2年生12人に授業を行った。生徒たちは本年度、神戸で活躍する人によるインタビューして新聞を作り上げる。

三好アドバイザーは「関心をもつた話題は突っ込んで聞こう」「記事を書くとき、その人のよさが伝わる言葉選びを」などと助言した。
(6月26日)

三好アドバイザーは「関心をもつた話題は突っ込んで聞こう」「記事を書くとき、その人のよさが伝わる言葉選びを」などと助言した。
(6月26日)

三好アドバイザーは「関心をもつた話題は突っ込んで聞こう」「記事を書くとき、その人のよさが伝わる言葉選びを」などと助言した。

型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン授業をとの依頼も届く。オンラインで対面に負けない、双方の授業ができるかどうか。学校と新聞・通信社の知恵の出し合ふなどとも思つ。7月30日までに終えた計3校の授業を紹介する。

■県立神戸高塚高校

情報の扱い方学ぶ

時事通信社神戸総局の丸山妻子総局長と、神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーが、「情報の読み方」をテーマに、小学5年生103人の扱い方や新聞の役割をテーマにオンライン授業を行った。テレビ会議アプリ「Zoom(ズーム)」で録画したものを、夏休み中の1年生200人に配信している。

丸山総局長は香港の国家安全維持法のニュースを通じ、「情報の取り扱いで最も重要なのは確認作業。一人より一人、より多くの人に話を聞き事実を追い求めることが必要だ」と説明した。

三好アドバイザーは新型コロナ報道を例に、「新聞の特長は記事の網羅性と一覧性。新聞を通じ、社会とのつながりを感じてほしい」と呼び掛けた。生徒たちは授業を視聴し、夏休みの課題の新聞を活用したワクシート作成に役立てる。(7月10日)

■姫路市立豊富小中学校

新聞の読み方伝授

神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーが「新聞の読み方」をテーマに、小学5年生103人に、遠隔会議システムを利用したオンライン授業を行った。テレビ会議オブジェクトを例に、得た藤井聰太棋聖の記事を例に、史上最少で将棋のタイトルを獲得した藤井聰太棋聖の記事を例に、一番最初に結論を書く「逆三角形」など新聞の仕組みを説明。新型コロナ報道では「記事は事実の裏付けをして掲載している」と話し、「SNSではフェイクニュースも流れる。正確な情報を得てほしい」と呼び掛けた。

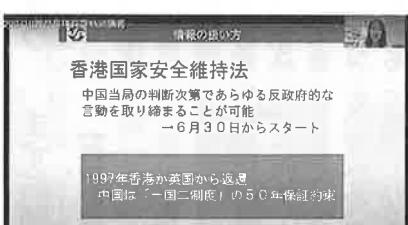
三好アドバイザーは「新聞の読み方」を例に、「新聞の特長は記事の網羅性と一覧性。新聞を通じ、社会とのつながりを感じてほしい」と呼び掛けた。生徒たちは授業を視聴し、夏休みの課題の新聞を活用したワクシート作成に役立てる。(7月30日)

■2020年度 兵庫県NIE推進協議会名簿(7月現在)

会長	秋田久子	兵庫県NIE推進協議会会長
会員	西上三鶴	兵庫県教育長
会員	長田淳	神戸市教育長
会員	中谷安宏	兵庫県立学校長協会会長 (県立御影高等学校)
会員	柳田竜一	兵庫県中学校長会長 (神戸市立義務教育学校港島学園)
会員	宮本晃郎	兵庫県小学校長会長 (神戸市立湊小学校)
会員	摺河祐彦	県私立中学高等学校連合会理事長 (姫路女子学院高等学校)
会員	上月さやこ	県教委高校教育課指導主事
会員	川添悦子	県教委義務教育課指導主事
会員	山本茂之	県企画県民部管理局 私学教育課企画専門員
会員	後藤英樹	神戸市教委学校教育課指導主事
会員	滝川盛幹	日本経済新聞社神戸支社長
会員	篠田丈晴	産経新聞社神戸総局長
会員	堀江泰史	朝日新聞社神戸総局長
会員	長沼隆之	神戸新聞社報道部長
会員	脇田顕辞	毎日新聞社神戸支局長
会員	西村泰輔	読売新聞社神戸総局長
会員	安本省吾	共同通信社神戸支局長
会員	丸山実子	時事通信社神戸総局長
事務局	三好正文	事務局長(神戸新聞NIE推進部 シニアアドバイザー)
事務局	石原丈知	コーディネーター (神戸新聞NIE推進部顧問)
事務局	山畠由美	事務局員



▼生徒の感想 長塚花佳(はるか)さん「会話を楽しみながらインタビューしたい」、高見蒼介さん「相手への敬意をもつ」という言葉が心に残った



香港国家安全維持法
中国当局の判断次第であらゆる反政府的な言動を取り締まることが可能
—6月30日からスタート



▼児童の感想 柿本陽愛(はるあ)さん「新聞は難しい言葉もあるけど、将来役立ちそう」、多田剛章君「正しい情報を知るため新聞は大切だと思った」

時事通信神戸総局長 丸山実子 内政と外交 交互に取材

5月1日付で赴任しました。1993年4月に入社して以降、内政と外交(中国)、という二つの分野を交互に取材してまいりました。いずれも中途半端と言えますが、「両分野の接点はゼロではなかった」と前向きに捉え、開き直っておりまます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、さまざまな損失をもたらしましたが、確かな情報に基づいて行動することの大切さを多くの人が認識したように思います。こうしたタイミングにあり、新聞の果たすべき役割は大きいと考えております。

特に学校教育では、リモート学習などの試みが広がる中、新聞が、子どもたちにとってより身近な教材となり得るのではないかと思う。微力ですが、何かお役に立てれば幸いです。

県NIE推進協議会会員の新聞・通信社で3~5月、人事異動があり、日経新聞神戸支社長が浅見昭彦さんから滝川盛幹さんに、朝日新聞神戸総局長が小林杉男さんから堀江泰史さんに、時事通信神戸総局長が島内真人さんから丸山実子さんに、読売新聞神戸総局長が広瀬和勇さんから西村泰輔さんに交代した。いずれも記者経験が豊富で、NIEへの関心も高い。人となりを自己紹介で。

■新聞・通信社 4人の新会員紹介

三好アドバイザーは新型コロナ報道を例に、「新聞の特長は記事の網羅性と一覧性。新聞を通じ、社会とのつながりを感じてほしい」と呼び掛けた。生徒たちは授業を視聴し、夏休みの課題の新聞を活用したワクシート作成に役立てる。(7月30日)

三好アドバイザーは新型コロナ報道を例に、「新聞の特長は記事の網羅性と一覧性。新聞を通じ、社会とのつながりを感じてほしい」と呼び掛けた。生徒たちは授業を視聴し、夏休みの課題の新聞を活用したワクシート作成に役立てる。(7月30日)

「不寛容の時代、新聞の役割期待」

神戸山手女子中高教諭・近藤隆郎

今、社会は不確実性の高まりとともに、不寛容さを増している。インターネット上では匿名性をいいことに、自分に何ら関係のないことにまで「許せない」と過激なコメントが発信される。こうした口論は、人々の感情のコントロール力を痺痺させ、身勝手な個人主義を蔓延させることに繋がっているのではないか。
新聞の果たす役割に大いに期待するとともに、新聞を用いた授業で学校を社会とつなげることの責任について思いをいたす機会をいただけたことに感謝したい。

「正しく恐れ、人をいたわる姿勢が社会に広がり、安心して暮らせる社会を取り戻していくよう報道機関としての役割を一層自覚する」――政府が新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言を一部で解除した5月21日、日本新聞協会と民放連が共同声明を発表した。非常に力強く、背筋が伸びる思いがする。

日本新聞協会が任命するNIEアドバイザーに2020年度から、神戸山手女子中学校高等学校の近藤隆郎教諭と、県立川西明峰高校の瀧口梓教諭が就任した。NIEの実践豊かな教諭として、兵庫県NIE推進協議会が新聞協会に推薦した。これで、同協会のアドバイザーは県内で11人となつた。ほかのアドバイザーは次のみなさん。

【一般社団法人曰本新聞協会N.E.I.アドバイザ】
（順不同）
・同市立久保小学校主幹
教諭▽万寿本寛之・姫路市立
中学校教諭▽高井浩
・姫路市立大的中学校
小学校主幹教諭▽若生佳久
美・姫路市立花田小学校
・同市立大和小学校主幹
教諭▽荒木浩輔・神戸市立

諭▼佐伯奈津子・姫路市立朝日中学校教諭▼桙田安史・県立鳴尾高校教諭▼佐々木造一・県立網干高校教諭

【2020年度兵庫県NED推進協議会特任アドバイザー】

「社会の疑問に気づくツールに」

川西明峰高教諭·瀧口梓

「自分の中に問いを立てること」。
社会の疑問に気づき、立ち止まつて考
えること。そのためツールとして新
聞を授業に取り入れてきた。今まで
の実践を広げつつ、NIEアドバイザ
ーの先輩方が積み重ねてこられた実
践から学びながら、持続可能な社会
を作っていくために、社会を変えてい
く学生を育てるために、尽力していく
たい。

英語の民間試験導入反対、9月入学の議論、10年後20年後の未来に責任を持てない「大人」が動かす社会に学生が声を上げ始めた。これは社会に関心の高い一部の学生だけが起こしたことだろうが。

讀売新聞神戸総局長 西村泰輔

阪神大震災の直前に入社

入社したのは阪神大震災が起きた年度（1994年度）です。四半世紀を経て、初めて神戸に赴任しました。

大半は、大阪を中心に事件担当の記者やデスクとして過ごしましたが、昨年9月までの2年間は広報宣伝部に所属し、出前授業にも出向きました。兵庫県内では県立武庫荘総合高校で講演させていただきました。各地の学校などに送付している

「読売記者講師派遣のご案内」というパンフレットの表紙には、出前授業中の私が写っていますので、「あれ?」と思った方は声をかけてください。

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校生活での制約も続いていると思いますが、新聞には必要な情報がたくさん、リアルタイムで掲載されており、学習にも役立ちます。その素晴らしさをお伝えできる日を楽しみにしています。

朝日新聞神戸総局長 堀江泰史

牛糞の「こうべっこ」自負

皆さま、こんにちは。2020年4月1日付で朝日新聞大阪本社から神戸総局に赴任して参りました。
私は1963（昭和38）年に神戸市生田区で生まれ、市立東川崎小学校（現湊小）、楠中学校（現湊翔楠中）、兵庫県立御影高校、県立神戸商科大（現兵庫県立大）で学びました。生粋の「こうべっこ」を自負しております。

新聞記者になって33年になります。総局長という仕事は高知、奈良に次いで3度目ですが、各地でNIEに携わる多くの方々に大変お世話になってきました。NIEの大切さや新聞を手にとっていただけたありがたさを強く感じてもきました。

新型コロナウイルスの流行で大変な日々をお過ごしと存じますが、こういう時だからこそ皆さまと一緒に力を尽くしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

日本経済新聞神戸支社長 潤川盛幹

初の関西 波乱の幕開け

はじめまして。1986年に入社し、主に銀行、証券会社、商社などの取材を担当し、バブルの膨張と崩壊の過程をつぶさにみてきました。駐在した香港やロンドンでは、アジア通貨危機やリーマンショックなどの対応に追われました。

関西で仕事をするのは初めてです。4月の赴任とほぼ同時に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出て、波乱（というか、自盡瀕死）の暮間はとなりました。

新聞を媒介に学校と社会を結びつけるというNIEの活動はとても素晴らしいと思います。

いま、学校も社会も世界も大変な変動期に入り、新聞そのものもデジタル化の大きな荒波を受けて大変身を迫られています。これから時代、新聞に何が求められるのか。皆さまの声に謙虚に耳を傾けて学びのあり方や社会、新聞の未来と一緒に考えていきたいと思います。

「新しい日常」でもNIE

小中一貫の豊富小中学交

姫路

いるなど、その感想が聞かれ、以前から校種を超えた教「情報の作り手」としての意識の芽生えを感じます。育研究が活発で、新しいことトライする雰囲気がN－E推進につながっているさらに、学校図書館や校内の掲示板に新聞コーナーように感じます。

元中學校校長



お勧めの記事を選び、発表
内容を考える9年生

学習をしようと準備をしていったものの、5月になつても実施できずにいた。

このようない状態で、学校には通えない児童生徒のために、どのような学習指導や支援が

19年度 小中両校とも日
本新聞協会のNIE実践指
定校となり、実践を積み重

「つかひ」「へい」「かき」と書く。

NIKE春夏秋冬



緊急事態宣言の中で

■日本新聞協会NJEアドバイザー■

姫路市立朝日中学校教諭 佐伯奈津子

の読み取りクイズがダウンロードでき、自粛期間中であつても新型コロナ関連の記事を理解を深めることができた。また自粛期間中、各新聞社が、家にいる子どもたちのため少しでも新聞で退屈しないように少しずつ情報を発信していくことによって、多くの子供たちが、新聞を読む機会を得た。このように、これまでの新聞の役割を踏襲しながら、新たな形で情報発信を行なうことで、新聞の魅力が広がるきっかけとなってしまった。

であるかという課題がもちあがつた。そこで各教育委員会やそれぞれの学校では、ウェブ上の学習サイトを紹介し、刷のページを切り取れば折り紙が楽しめるページや、今までにいながら学習が進められる方法を提案。その中で神戸新聞の電子新聞「神戸新聞N」表現をまとめたページ、塗り絵などを紹介しておきたい。カラーペーパーが使えるようにして、紙面づくりを工夫されていました。

「新聞のある風景」をみんなで創っていきます。

度に教員たちが、NIEに関するから生徒がお勧めの記事をススメる特別な会議や研修を行つて順に紹介する取り組みもシステムを聞いているわけではありません。タートしています。

新規を設けるなど、日常的に新しい
規則に触れて感じることでの休校措置を経て、6月15日から通常の教育活動が再開しました。後期課程（中止になっていた教科）も、各教科の担当教員による個別指導で実施されました。

「情報の作り手」としての意識の芽生えを感じます。さらに、学校図書館や校内の掲示板に「新聞」「――」のように感じます。

学びながら一緒に成長を

この4月から兵庫県N.I.E推進協議会にお世話をなっています石原丈知です。中学校社会科の教員として姫路市に採用され、高砂市、そして加古川市で36年間勤めてきました。

この時間の取り組みが、自ら課題を設定しリサーチを進め自分の「やりたいこと」が真ん中にある学習になるということだと思います。

4月に新規実践校を回らせていただき迷惑じたこと

・加古川市立志方中学校校長、石原丈知さんが就任した。石原さんは1984年度から姫路市や加古川市の中学校で社会科教諭を担当する。抱負は自己紹介に譲るとして、愛称は「ジョージ」。N I E 実践指定校の記者派遣にイラストのような人が来たら、それはきっと「ジョン先生」だ。

兵庫県NIE推進協議会 務め、2014年4月、加
コーディネーターを2年 古川市立志方東小学校教
間にわたって務めた田中 頭、17年4月～20年3月、
茂典さんが3月末で退任 同市立志方中学校校長を歴
べ、後任に加古川市の前 任した。

石原さん就任

例えば、高校での「探究」

お願いします。

組まれる先生とともに私は身もしつかりと学びながら今までの経験が生かせればと思つています。よろしく